春風秋雨

江利川毅　県立大理事長

今年を振り返る②

「継続は力」の偉業

今年の明るいニュースとしてまず思い浮かぶのは、日本の二人の科学者がノーベル賞を受賞したことである。特に梶田隆章・東京大学宇宙線研究所長は東松山市出身で、川越高校、埼玉大学で学んだ人なので、埼玉県人の一人として誇らしく思う。心から祝福申し上げます。

■知の地平線の拡大

ノーベル物理学賞の受賞理由は「ニュートリノが質量をもつことを示すニュートリノ振動の発見」である。この発見は素粒子物理学の歴史を塗り替える出来事だそうである。カミオカンデで観測したデータからの推論、さらにはスーパーカミオカンデを使ってのデータ収集や解析によって決定的な証拠を示して、発表に至ったとのことである。

梶田先生は「この研究が発展していけば、謎の多い素粒子の性質が解明され、物質の起源や宇宙の成り立ちに迫ることができるかもしれません。この研究分野は、社会ですぐに役に立つものではありません。ただ一方で、人類の知の地平線を拡大する分野なのです。純粋な基礎科学をノーベル賞に値すると認めていただいたことは非常にありがたい」と述べている。

確かにノーベル賞は、ノーベルの遺言により「前年に人類に最も偉大な〝利益〟を与えた人物」に与えられることになっている。基礎科学で受賞する人が少ないだけに、梶田先生の発見は極めて高い評価を受けているのだと思う。ノーベル物理学賞選考委員長は「素粒子物理学だけでなく、宇宙論にも大きな影響を与えた」と述べている。

■妻の支え・天の導き

ノーベル医学生理学賞を受賞した大村智・北里大学特別栄誉教授の授賞理由は、「寄生虫病の新たな治療に関する発見」である。アフリカなどの熱帯地方に広がったオンコセルカ症などの特効薬となる抗寄生虫薬「イベルメクチン」、そのもとになる物質「エバーメクチン」を土壌の中の微生物から見い出した。1㌘の土壌中には1億個の細菌が生きているという。各地で土壌を採取し、その中からこれはというものを見つけ出す。気の遠くなるような膨大な作業であるが、「一生懸命やっていれば天に通じる」と語っている。

大村先生は若いころ激務が続いて精神が異常状態になり、見かねた奥様が精神科へ連れていって、医師から気晴らしにゴルフを勧められたそうである。それである時、川奈ゴルフ場近くの土壌を採取し、エバーメクチンの発見につながったとか。奥様は2000年に亡くなられたが、私には天が奥様を通じて大村先生を導かれたように感じられる。

お二人の業績を見ると、地道な努力を継続して積み上げていくことの大切さに気付かされる。まさに継続は力なりである。若い世代の人たちにはぜひこの姿勢に学んでいただきたいと思う。

■偉業の陰の努力

今年の快挙はスポーツの世界に多かった。サッカーの女子ワールドカップ・カナダ大会で、なでしこジャパンが準優勝。キャプテン宮間選手の「女子サッカーをブームでなく文化へ」という言葉も強く印象に残っている。ラグビーのワールドカップ・イングランド大会。日本代表は強豪の南アフリカをラストプレーでの逆転トライで破り、海外のメディアに「スポーツ史上最大の番狂わせ」と報じられた。

男子体操の世界選手権で37年ぶりの団体優勝。内村航平選手は個人総合6連覇。フィギュアスケートのグランプリファイナルで、羽生結弦選手は世界歴代最高得点で優勝。

この華々しい活躍の陰には苦しい練習に耐え、想像を超えるような努力があったものと思う。その努力に敬意を表し拍手を送りたい。

■敬虔な祈り

心に残る忘れられないシーンがある。天皇皇后両陛下が西太平洋のパラオを訪問され、第二次世界大戦の激戦地ペリリュー島で戦没者を慰霊されたことである。深々と黙礼された両陛下の後ろ姿に、言葉では表せない感動を覚えた。あの敬虔（けいけん）な祈りの気持ちを、われわれ日本人全体が持ち続けなければいけない。日本国憲法は「国の交戦権は、これを認めない」と規定しており、日本は平和国家として歩む決意をしたのである。その道を歩み続ける、この点でも継続は力なりである。

今年の良き成果を引き継ぎつつ、来年がさらにより良き年になることを皆さまと共に祈りたい。

（次回は来年1月11日付）